

県立高等学校改革計画

第一次まとめ

(平成9年6月23日)

第1	県立高等学校改革計画の策定	
1	計画策定の趣旨	1
2	計画の内容	1
第2	県立高等学校改革の基本方針	
1	本県における今後の高等学校の在り方	2
2	改革への視点	3
3	学校・学科配置の基本的な考え方	3
第3	男女共学化の実施	
1	共学化のねらい	4
2	共学化の方針	4
第4	定時制・通信制高校の配置	
1	改革への視点	5
2	定時制単位制高校の基本構想	6
3	定時制単位制高校の配置	6
4	通信教育の充実	6
第5	総合学科高校の配置	
1	総合学科のねらい	7
2	新しい制度の活用	7
3	総合学科の設置の基本的な考え方	7
4	総合学科高校の配置計画	8
	資料編	9

県立高等学校改革計画

第1次まとめ

第1 県立高等学校改革計画の策定

1 計画策定の趣旨

今日の急速な社会の変化に対応するため、現在、21世紀を展望した我が国の教育の在り方が検討されるとともに、全国的に教育の諸制度の改革が進められている。

福島県も、これまで、「生徒減少期における高等学校教育の在り方」についての平成5年の学校教育審議会答申に基づき、40人学級編成の実施、学科の改編、男女の共学化の推進をはじめ、単位制や総合学科などの特色ある学校づくり等の高等学校改革に努めてきている。

しかしながら、本県においては、平成12年度以降、急激な生徒減少期を迎え、平成20年には、15歳人口が現在より約7,000人減少して21,000人台となり、本格的な少子化社会となるため、地域によって異なる人口動態や生徒減少の状況に応じ、全県的な視野に立って、学校規模の適正化を図り、学校の適正な配置を行わなければならない。

このため、少子化に対応し多様な生徒の個性を生かす今後の高等学校教育の在り方を見極めながら、本県の学校・学科の適正配置モデルを構想し、特色ある学校づくり、学科の改編、学校の統合などの抜本的な高等学校改革を計画的に行っていくことが必要である。

そこで、第4次福島県長期総合教育計画に沿って、これまでの改革を継続しながら、新世紀ふくしまを担う「明るく個性豊かな人間の育成」のため、本県の高等学校教育の充実に向け、県立高等学校改革計画を策定することとした。

2 計画の内容

平成8年4月、高等学校教育課内に「県立学校改革推進班」を設置するとともに、教育庁内に調整会議等を設け、関係機関からの意見聴取のうえ、当面する課題について検討し、次の内容の改革計画を「第一次まとめ」として策定する。

- (1) 県立高等学校改革の基本方針
- (2) 男女共学化の実施

(3) 定時制・通信制高校の配置

(4) 総合学科高校の配置

なお、学校の適正配置、学科の改編及び配置、新しい構想による学習施設等の設置などを内容とする改革計画は引き続き検討し、今後、「第二次まとめ」として策定する。

第2 県立高等学校改革の基本方針

1 本県における今後の高等学校の在り方

本県では、「ふくしま新世紀プラン」の施策のもとで「地域に根ざし、世界に伸びる人づくり」に取り組んでいるが、国際化、情報化、技術革新の進展や地域社会の変化に対応する学校改革が重要な課題となっている。また、学校週5日制の完全実施を視野に入れ、学校・家庭・地域社会の連携を図る開かれた学校づくりや、生徒一人一人の個性を尊重し、それぞれの長所や特技を伸ばし、自ら学び、考え、判断し、行動する「生きる力」を育む学校づくりが求められている。

そこで、これからの生徒減少期を高等学校教育の質的向上を図る好機とし、確かな改革への視点に立って県立高等学校改革を推進するため、現在の高等学校教育をめぐる諸状況や本県が抱える諸課題を踏まえ、本県における今後の高等学校の在り方を次のように考える。

(1) 生涯学習の観点から

これからの生涯学習社会における高等学校は、生徒一人一人に生涯にわたって学習を続けていくために必要な基礎的な能力や主体的な態度を培うとともに、社会の人々の学習ニーズや地域の要望に応える生涯学習機関としての役割を高めていくことが必要である。

(2) 個性尊重の考えに立って

個性を生かす教育の充実のために、生徒一人一人が基礎・基本の確かな学力を身に付け、それぞれの能力・適正・興味・関心、進路等によって意欲的に学ぶことができる高等学校教育の在り方がより求められてきている。そのため、学校・学科それぞれの教育内容の特色化を図り、選択の幅の広い教育課程編成を工夫し、生徒が主体的に教科・科目の選択学習ができるよう高等学校教育をより柔軟でより多様にすることが必要である。

(3) 高校進学率の向上に対応して

本県においては、高等学校への進学率が向上するのにもない、入学する生徒の学習歴も多様化しており、生徒一人一人の特性に応じた様々な学習ニーズに応えられる学校の在り方が求められている。今後、中学校との連携を図りながら、多様な生徒を受け入れることができる新たな学校づくりが必要である。

(4) 地域に根ざして

学校は地域社会に深くかかわり、教育機関としてだけでなく、地域の学習センターとしての文化的機能も果たしている。特に、県内の生徒減少地域における高等学校については、地域との連携を図り、地域社会の活性化に結びつく新しい構想による学校づくりを工夫し、高等学校教育の充実に努めることが必要である。

2 改革への視点

- (1) 本県の県北、県中、県南、会津、いわき、相双それぞれの地区の特性を考慮し、学校の統合なども視野に入れ、地区ごとに学校を適正に配置するとともに、1学年8学級以下の規模への適正化を図り、県内全域にわたって高等学校教育を充実させる。
- (2) 男女共同参画社会にふさわしく、すべての県立高等学校を男女共学化する。
- (3) 生徒一人一人の個性を尊重し、能力・適正、興味・関心、進路希望等によって教科・科目が選択できるよう、多様な特色ある学校・学科の配置を推進する。
- (4) 多様な学習ニーズに柔軟に応え、生涯学習機関としての役割をも担う定時制・通信制高校を、全県的な視野に立って配慮し、定時制課程・通信制課程における教育を充実させる。
- (5) 他の高等学校との学校間連携、技能審査の成果及び専修学校における学習成果の単位認定など、新しい学び方を取り入れた学校づくりを推進する。
- (6) 先端技術の学習センター等の新しい構想による学習施設の設置及び中央教育審議会の答申を踏まえる中高一貫教育校の設置等について検討する。

3 学校・学科配置の基本的な考え方

- (1) 普通科を設置する高校、職業系専門学科を設置する高校については、それぞれ、地区の実情や生徒の志願動向を考慮し、適正に配置する。

(注) 普通系専門科……理数科、英語科、文理科、国際科学科、国際文化科、体育科、数理科学科、デザイン科学科など

職業系専門学科……農業、水産、工業、商業、家庭に関する学科など

- (2) 総合学科高校及び普通系専門学科の全日制単位制高校については、県内の通学状況や生徒の志願動向等を考慮し、適正に配置する。
- (3) 新しいタイプの定時制・通信制の単位制高校を、全県的な視野に立って配置する。

第3 男女共学化の実施

1 共学化のねらい

21世紀において福島県が創造的で活力ある社会であるためには、地域づくりをはじめ、あらゆる分野で男女が共に参画し、それぞれが持てる能力を十分に発揮することができる「男女共同参画社会」を築いていくことが必要である。そのためには、伝統的な性別役割分担意識にとらわれることなく、女性の社会参加と男性の家庭や地域への参加を促し、男女があらゆる分野で協力し合う生き方が求められる。

青年期の生徒一人一人にとって、高校時代は、様々な体験をとおして人間の在り方や生き方を学び、社会性を身に付けながら自己を確立していく時期である。この時期に、男女が共に学び、それぞれの個性を生かした役割を担って協力し、互いに人格を尊重し合いながら充実した学校生活を送る体験は、将来、男女共同参画社会を築いていくうえで大きな意味がある。

そこで、本県が策定した「ふくしま新世紀女性プラン」、さらには平成5年の学校教育審議会答申に基づき、県立高等学校の男女共学化を推進する。

2 共学化の方針

- (1) 平成15年度をめどに、すべての県立高等学校を、逐次、男女共学にする。
- (2) 共学化にともなう諸課題の解決を図るとともに、必要となる施設・設備等の整備を行う。

平成10年度	郡山高校普通科・郡山女子高校
平成11年度 、 平成15年度	福島高校・福島女子高校 安積高校・安積女子高校 会津高校・会津女子高校・若松女子高校 喜多方女子高校 磐城高校・磐城女子高校 相馬高校普通科・相馬女子高校

第4 定時制・通信制高校の配置

1 改革への視点

現在、定時制課程に学ぶ勤労青少年の就業形態が変化し、就労時間帯が多様化するのにもない、夜間だけでなく昼間での就学を希望する者が増加するなど、定時制課程による教育への新たなニーズが高まってきている。一方、極めて多様な生徒が高等学校に入学するのにもない、不登校、学校不適應の生徒が増加し、その対応として多様で柔軟な教育が求められてきている。また、高校中途退学者が再び高等学校教育を受けることができる機会を保障することが必要であり、さらには、生涯学習社会での開かれた学校づくりが課題となっている。

また、通信制課程に学ぶ生徒数は増加傾向にあり、従来の通信教育での学び方に加えて、不登校生徒のための自宅学習の機会として、あるいは大学入学資格検定制度と併用して進路実現を目指すなど、新たな学び方が求められてきている。さらに、現代の情報通信手段の発達にもない、テレビ放送等による通信教育の実現が望まれるなど、県土の広い本県における通信教育の充実を図ることが必要である。

そこで、現在の定時制・通信制高校を、次の視点に立って、多様な学習ニーズに応える新しいタイプのものに改革する必要がある。

- (1) 定時制高校は、新しい柔軟な学び方で高等学校教育を受けることができる単位制高校とする。
- (2) 様々な学習歴をもつ多様な生徒の就学の間として、また、社会人の聴講や科目

履修ができる生涯学習の場として活用を図る。

- (3) 県内の各地区において通信教育を受けることができるように、施設・設備の整備を行い、通信教育の全県ネットワーク化を図る。

2 定時制単位制高校の基本構想

- (1) 定時制における単位制課程とし、設置学科は普通科とする。
- (2) 昼間主コース及び夜間主コースを設けて、両コース間の併修を認める。
- (3) 次のように柔軟な単位の認定を行う。
 - ア 定時制課程と通信課程での単位の併修を認める。
 - イ 過去に修得した単位や大学入学資格検定で合格した科目の単位を卒業に必要な単位として認定する。
 - ウ 技能審査の成果や専修学校における学習成果を単位として認定する。
- (4) 転編入学定員の特別枠を設ける。
- (5) 聴講制度を取り入れる。

3 定時制単位制高校の配置

- (1) 県北、県中、会津、いわきの各地区の定時制高校のうち、次の4校を新しい定時制単位制高校として配置する。

〔県北〕福島中央高校 〔県中〕あさか開成高校須賀川校舎（独立校化）
〔会津〕会津第二高校 〔いわき〕いわき光洋高校

- (2) 県南及び相双地区への新しい定時制単位制高校の配置については検討する。

4 通信教育の充実

- (1) 「通信教育実施校（通信制高校）」は現在の「あさか開成高校」とし、各地区に「通信教育協力校」を配置する。
- (2) 通信教育実施校の施設・設備の整備を行い、各地区の通信教育協力校にスクーリング専用教室を確保する。

第5 総合学科高校の配置

1 総合学科のねらい

総合学科は、普通科と専門教育を総合的に行う第3の学科であり、高等学校教育改革のパイオニア的役割を果たすものとして期待される。総合学科高校は、自己の能力や適正を見だし、働くことや学び続けることの意義や目的を理解したうえで就職または進学し、主体的、創造的に生きていくことができる資質を養うため、「自己の進路への自覚を深めさせる学習」や「個性を生かした主体的な学習」を重視する新しいタイプの学校である。

本県においても、将来の進路実現に必要とされる科目群や特定の分野を専門的に学習する科目群など、いくつかの選択科目を組み合わせた多様な「系列（選択科目群）」を設けた総合学科高校を設置し、生徒の希望や地域の期待に応える必要がある。

2 新しい制度の活用

現在、多様でより柔軟な高等学校教育の在り方が求められており、新しい諸制度の導入が図られつつあるが、総合学科高校においては、学年の区分を設けない教育課程の編成、一芸入試など多様な入学者選抜方法の工夫、学校間連携の推進など、新しい制度の積極的な活用を図り、さらに特色ある魅力ある学校づくりに努める必要がある。

3 総合学科の設備の基本的な考え方

総合学科高校の設置にあたっては、県内の通学状況や生徒の志願動向等を考慮して、当面、次のような考え方に立って計画的に行う。

- (1) 将来の職業や学習に必要な能力と資質を養うため、多様な普通系の系列を有する総合学科高校を設置する。
- (2) 地域の要望に応え、地域社会を担う人材を育成するため、多様な専門科目からなる系列を有する総合学科高校を設置する。

4 総合学科高校の配置計画

年	県北	県中	県南	会津	いわき	相双
8			光南高校			
9	安達東高校					双葉翔陽高校
10		小野高校				
11以降	福島地区	郡山地区		会津若松・喜多方地区	いわき中南部地区	相馬地区

学校教育審議会答申後の学校改革実施状況

\		平成6年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度
学級編成				1学年の40人学級編制完全実施	1・2学年の40人学級編制完全実施
男女共学化		富岡	福島商業 福島西女子→福島西 福島東 須賀川普通科 須賀川女子 →須賀川桐陽	郡山英語科	白河 白河女子→白河旭
特色ある学校づくり	単位制	[平成5年度新設] いわき光洋 文理科 (全日制単位制)		安積第二(定時制単位制昼間部) →あさか開成 国際科学科 (全日制単位制)	
	総合学科(系列)			矢吹→光南 (人文科学 自然科学 人間科学 国際教養 福祉介護 情報 テクノアート 流通ビジネス)	安達東 (生物自然 産業機械 食物栄養 地域振興 教養文化 服飾デザ イン) 双葉農業→双葉翔陽 (環境・建設 人文科学 自然科学 生活文化 国際・流通)
学級編成	農業・水産		いわき海星 漁業→海岸	相馬農業飯館 産業技術→普通 いわき海星 水産工学→海洋工学 水産食品→食品システム	福島農産 農業 畜産 園芸 農業土木 食品化学 食品流通 生活科学 →福島明成 生物生産 生物工学 環境土木 食品科学 生産情報
	工業		郡山北工業 機械→環境システム		
	商業	猪苗代 普通→国際観光 福島西女子 商業→普通 小名浜 商業→普通 勿来 商業→普通	福島商業 商業→国際経済 経営情報 マネジメント会計 本宮 商業→情報会計 須賀川 商業→オフィス情報 ビジネス会計 保原 商業→普通	郡山商業 商業→国際経済 流通経済	平商業 商業 情報処理 情報会計 経理 →国際経済 O.A会計 流通ビジネス 情報システム
	家庭	四倉 家政→普通	田島 家政→普通	相馬農業飯館 家政→普通 新地 家政→普通	耶麻農業 家政→ライフコー ディネイト 船引 家政→福祉 食物文化コース
	その他		福島西 商業→デザイン科学 数理科学 須賀川桐陽 普通→数理科学	安積女子 英語→普通	

資料

平成7年国勢調査 年別15歳人口地区別集計

年	地区	県全体	県北	県中	県南	会津	いわき	相双
平成8年	総数	28,889	7,005	7,671	2,282	4,321	4,522	3,088
	対8年比較							
平成9年	総数	29,280	7,008	7,774	2,360	4,325	4,695	3,118
	対8年比較	391	3	103	78	4	173	30
平成10年	総数	28,967	6,941	7,798	2,351	4,168	4,626	3,083
	対8年比較	78	▲64	127	69	▲153	104	▲5
平成11年	総数	28,830	6,803	7,729	2,264	4,380	4,585	3,069
	対8年比較	▲59	▲202	82	▲18	59	63	▲19
平成12年	総数	28,192	6,559	7,659	2,309	4,184	4,528	2,953
	対8年比較	▲697	▲446	▲12	▲27	137	6	▲135
平成13年	総数	27,148	6,298	7,329	2,158	4,044	4,465	2,854
	対8年比較	▲1,741	▲697	▲339	▲124	▲277	▲57	▲234
平成14年	総数	26,187	6,188	7,058	2,080	4,037	4,215	2,609
	対8年比較	▲2,702	▲817	▲613	▲202	▲284	▲307	▲479
平成15年	総数	25,538	5,977	6,972	1,976	3,911	4,154	2,548
	対8年比較	▲3,351	▲1,028	▲699	▲306	▲410	▲368	▲540
平成16年	総数	24,158	5,557	6,593	1,910	3,762	3,956	2,380
	対8年比較	▲4,731	▲1,448	▲1,078	▲372	▲559	▲566	▲708
平成17年	総数	23,453	5,572	6,267	1,779	3,669	3,884	2,282
	対8年比較	▲5,431	▲1,433	▲1,404	▲503	▲652	▲638	▲806
平成18年	総数	22,924	5,210	6,298	1,783	3,610	3,821	2,202
	対8年比較	▲5,965	▲1,795	▲1,373	▲499	▲711	▲701	▲886
平成19年	総数	22,841	5,381	6,184	1,717	3,435	3,878	2,246
	対8年比較	▲6,048	▲1,624	▲1,487	▲565	▲886	▲644	▲842
平成20年	総数	21,859	5,106	6,001	1,653	3,280	3,684	2,135
	対8年比較	▲7,030	▲1,899	▲1,670	▲629	▲1,041	▲838	▲953
平成21年	総数	21,863	5,042	5,930	1,652	3,289	3,815	2,135
	対8年比較	▲7,026	▲1,963	▲1,741	▲630	▲1,032	▲707	▲953
平成22年	総数	21,382	5,067	5,904	1,633	3,124	3,599	2,055
	対8年比較	▲7,507	▲1,938	▲1,767	▲649	▲1,197	▲923	▲1,033

下段は対8年比較による増減数 (▲減)